

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	203	科目名	生物総合評価管理学事例研究1	サブネーム	食品のリスク管理事例研究1
共催機関名	日本国際生命科学協会	レベル	中級～上級	講義枠	木曜日 講義時間 18:30～20:00
科目概要	食という複雑系メディアにおける、化学物質及び生物のリスクアセスメント、リスク管理、リスクコミュニケーションの問題を取り上げる。食を取り巻くさまざまな状況、特殊な要因について説明するとともに、食の分野のリスクアセスメントと管理を考える上で重要な問題、課題を紹介する。食の分野においてサイエンスに基づいてリスクを判断することの難しさ、国際的な整合性の重要性について解説する。さらに、食品規制の法体系、また、表示、トレーサビリティ、HACCPといった管理手法についても解説する。				

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
食とリスクアナリシス	1 概論:食品とリスクアナリシス	シリーズの内容を紹介するとともに、シリーズに一貫した基本となるリスクアナリシスの枠組みを示す。食を取り巻くさまざまな状況、要因について概説、食品分野のリスクアセスメントと管理を考える上で重要な問題、特殊性について解説する。	4月21日	301	武居綾子	イカルス・ジャパン
	2 食品安全をめぐる国際的枠組みとわが国の対応	CODEX、WTO/SPS協定、ISO、HACCP等、食品の安全を保証し、国際流通を促進する国際的枠組み、制度、管理手法等について概説する。食糧の60%を海外からの輸入に依存するわが国の状況における、食のリスクと安全の確保について解説する。	4月28日	301	福富文武	日本国際生命科学協会
	3 食と生活習慣病	食は、生命を維持するために必要なカロリーや栄養を確保する上で必要不可欠である一方、過剰摂取によっては肥満等の疾病につながる状況を生み出す。食に内在するベネフィットとリスクについて解説し、食のリスクアナリシスとの関わりを紹介する。	5月12日	301	小林修平	和洋女子大学
	4 安全性確保のための管理体制	生産から食卓までの食品の流れの過程で、食品に関わるリスクを管理するためにとられるべき手法とシステムを紹介するとともに、リスク管理の困難性と重要性を解説する。これからの食の安全確保のため、産・官・学・市民に期待される役割について紹介する。	5月19日	301	峯 孝則	サントリー
	5 微生物	食品に含まれる微生物の効用とリスクについてケーススタディを用いて紹介する。分析技術の革新によって、微生物のリスクアセスメントや管理、効用の確認にどのような変化がおこっているかを明らかにし、今後の展開を解説する。	5月26日	301	天野典英	サントリー
	6 調理における食品成分の変化	生鮮食品を加熱等により調理することは、美味しさを醸し出すためばかりでなく、食材中に存在する有害成分の低減や除去にも意義がある。一方、加熱等の処理によって生成される成分についてのリスクも無視できない。リスク管理の観点から、調理の意味を解説する。	6月2日	301	吉田企世子	女子栄養大学
	7 食品添加物・香料	食品の製造、流通、保存等のために意図的に添加される食品添加物のリスクアセスメントと管理について紹介する。香料をケーススタディとして用い、食品に含まれる微量な要素のリスクアセスメントにおける国際的なアプローチと我が国の取り組みを比較する。国内法規制への準拠と国	6月9日	301	岡村弘之	長谷川香料
	8 残留農薬	食品に含まれる残留農薬のリスクアセスメントについてケーススタディーを用いて紹介する。残留農薬基準のポジティブリスト制への移行など最近の行政の動きについても紹介する。	6月16日	301	武居綾子	イカルス・ジャパン
	9 機能性食品	薬(医)食同源の考え方にに基づき、食品・食品成分・栄養素の第3次機能としての生体調節作用に関する科学と商品開発が、日本の特定保健用食品をはじめ欧米でも拡大しつつある。機能性食品に期待されるヘルスクレームと安全な摂取について国際的な動向を基に解説する。	6月23日	301	清水俊雄	フレスコジャパン
	10 BSEと鳥インフルエンザ	牛に発生したBSEとヒトにおいて新変異型クワイツフェルト・ヤコブ病が発症するリスク、また、高病原性鳥インフルエンザの発生とヒトへのものについて概説する。我が国と諸外国におけるリスク管理のアプローチの違いについて紹介する。	6月30日	301	唐木英明	東京大学名誉教授
	11 食物アレルギー	食物アレルギーは、アナフラキシーショックのような重症なものもあり、近年、人々の懸念が増している。日本を含む各国で、アレルゲンの表示制度が進行しつつある。食物アレルギーの機序と原因、その予防手段としての表示のあり方について解説する。	7月7日	301	丸井英二	順天堂大学
	12 サプリメント	日本では、サプリメントは食品に分類されている。現在、代替医療の手段の一つとしてサプリメントの利用が日米を中心に拡大しているが、各配合成分の安全性データに基づく上限摂取量の設定がグローバルに進められつつある。サプリメントの国際的な状況と安全な摂取について解説す	7月14日	301	末木一夫	日本国際生命科学協会
	13 日本における食品規制の体系	欧米で言われ始めた“農場から食卓(フォーク)まで”の食品の安全確保のための諸取組みを、食品の生産から消費にいたる過程に関わる法制度と体制について、主としてリスク管理に焦点を当てて整理し、紹介する。	7月21日	301	福富文武	日本国際生命科学協会
	14 食品表示	食品表示は、生産者や製造者からのメッセージとして、消費者が食品についての理解を深め、選択する上で有力な手段である。食品表示の現状から、リスク管理のためにどのように活用するかを解説する。	7月28日	301	渡辺 寛	ネスレジャパンマニュファクチャリング
	15 まとめ	前回までの講義のまとめ、質疑応答および討論を行う。	8月4日	301	武居綾子、福富文武ほか	